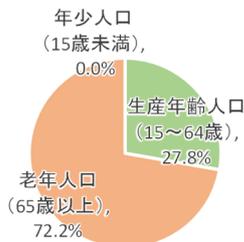


石橋 (いしばし)

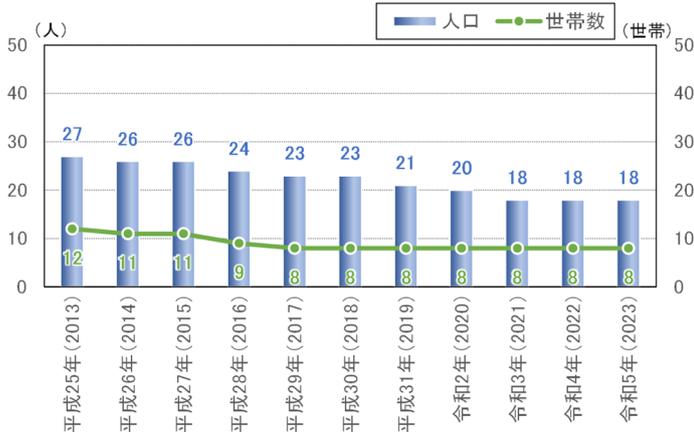
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	18人
世帯数	8世帯
高齢化率	72.2%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東側を岸田川が北西に流れ、県道岸田諸寄線が川に並走する。集落の周囲には田畑がやや開ける。東西に山が迫り、上山(岸田)から内山出合(内山)に至る山系の中腹、標高250mに位置する。地すべり地帯の平地の上にあり、清水と池沼が多い。

地名由来 村の入口の谷川に架かる千板石の大きな石橋が村の名の由来とされる(「たじま地名考」日本海新聞)。中世以前は「石津」「石谷」「ばば村」などとも呼ばれていたとされる。

歴史等 南方台地に中世土豪の居城馬場ノ平城の城跡がある。城主は馬場氏との伝承がある。

近世の石橋村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。寛政元年(1789)の家数40・人数211。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は144石余。特産物は但馬牛。江戸時代の土木集団である「黒鍬者」の出身地としての伝承がある。

明治22年(1889)八田村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数24、人口は男64・女77。

これまで把握している文化財

文化財の件数 150件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	7	0
		石造物	4		0
		工作物・その他の構造物	3		0
	美術工芸品	彫刻	6	10	0
		絵画	0		0
		工芸品	3		0
		書跡・典籍	0		0
		古文書・歴史資料・考古資料	1		0
		音楽	0		0
		演劇	0		0
無形文化財	工芸技術	0	0	0	
	その他の無形文化財	0		0	
	信仰の場	2		0	
	祭具	0		0	
	民具	123		0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	125	0
		年中行事・民俗芸能	1		0
		民俗技術	0		0
	無形の民俗文化財	食文化	0	4	0
		民間説話・俗信	3		0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	0	3	0
		古墳・その他の墓	0		0
		城館跡・寺社跡	1		0
		街道・古道等	0		0
		戦争遺跡	0		0
		その他の遺跡	2		0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・瀧・渓谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	1	0
		植物	1		0
		地質鉱物	0		0
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



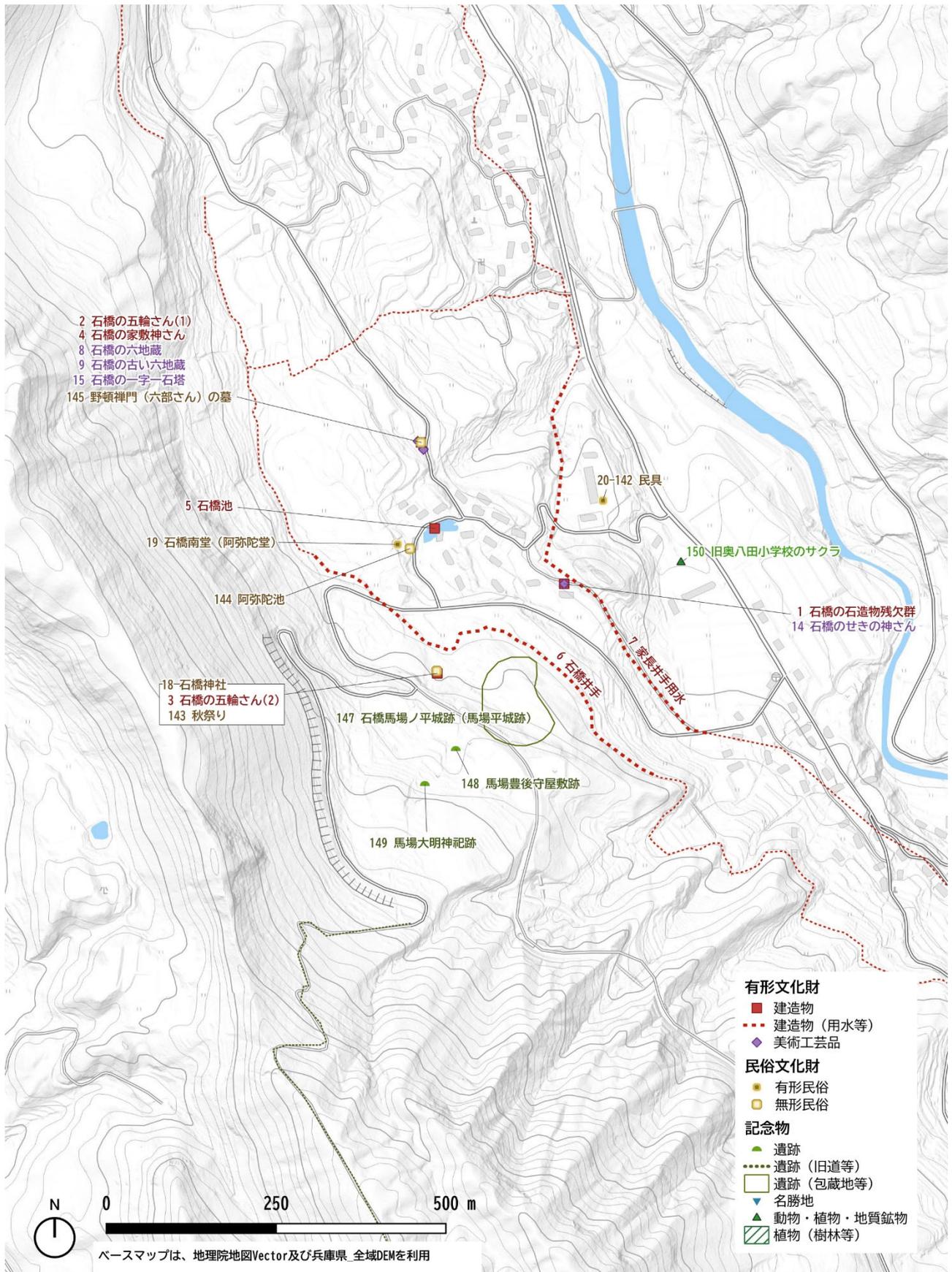
石橋池



石橋神社

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-10 石橋

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	石橋の石造物残欠群	全部で15～16体ほど集められた五輪塔・地藏の残欠。なかには外形を保つものもある。集められた理由は不明。総高130cm。
	2	石橋の五輪さん(1)	120×45cmの石塔。田んぼの畔に建てられ、前に一石五輪塔がある。祠内にはただの石が入っている。年代不明。損傷はみられない。
	3	石橋の五輪さん(2)	24×30cmの石塔。畑の端に草に埋もれた形である。水輪、地輪が紛失している。年代不明。小型の五輪塔である。現在は石橋神社に移設されている。
	4	石橋の家敷神さん	平石を立てて祠をつくり、その中に五輪塔を1基祀っている。火輪の部分が紛失している。年代不明。
工作物・ その他の 構造物	5	石橋池	阿弥陀池の続き、村の中央にある大きな池。村の西にそびえる上山に降った雨がろ過されて伏流水となり、この池に湧き出している。この湧水を灌漑用水にするために溜めたもので、百石余りの水田を養っている。石橋溜池普請願書を宝永6年(1709)に出しており、その後、普請を実施した文書が残る。なお、享保8年(1723)、天明8年(1788)にも普請の記録が残り、池を守り、水田を養うことに懸命だったことを物語る。
	6	石橋井手	海拔270mの中腹段丘にある石橋の水田を灌漑するための岸田川本流からの井手。山ひだに従って屈折しながら伸びる。水路延長は3.9km。室町時代に八田谷の第一の名主馬場氏の関連が想定されている。
	7	家長井手用水	近世中期に築造された水路。水路延長6,000m、灌漑面積14,000ha。取入口は岸田砂田、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	8	石橋の六地藏	54×144cmの石像。旧海上道の横にある。屋根は一石でその中に2体ずつ仏が刻まれている。台座は2つの石でできている。損傷はみられない。
	9	石橋の古い六地藏	現在の六地藏の横に不揃いに並んでいる。保存良好なものが2体、折れているものが4体。風化により外形は崩れているようで、造形の部分も薄くなっている。一体一石の六地藏とみられる。
	10	石橋南堂の十一面観音像	45×25cmの木像。林の南堂の中、若宮権現社に安置されている。頭の面の数は五、顔の両側に一面ずつ、合計八面であり、明治初めには八頭荒神像として報告している。両手が紛失しているが、塗りはわりあい色鮮やかである。厨子の中に「ホー」の木の札が2枚ある。1枚は明治30年(1897)奉納、1枚は明治35年(1902)奉納で、願主はいずれも馬場千代。
	11	石橋南堂の弘法大師像	林の南堂の中に安置されている木像(桐製)。両手がなく虫食いも多い。台座も損傷があり、塗りも薄くなっている。
	12	石橋南堂の薬師如来(釈迦如来)像	42×40cmの木像(坐像)。林の南堂の中に安置されている。左手首がなく、蓮台と台座に焼跡がみえる。塗りは金箔だが、かなり色褪せている。「安永3年(1774)甲午 再色仕候 五月三日相済」とある。
	13	石橋南堂の阿弥陀三尊像	林の南堂の中に安置されている木像。3体あり、中央は高さ64cm、左右は高さ32cm。損傷はなく塗りも美しい。安永5年(1776)の作。
工芸品	14	石橋のせきの神さん	石橋・田中の旧道の横にあり、丸山墓地と道をはさんで相對している。年代不明。「才の神さん」とも呼ばれている。川石で根元を補強している。
	15	石橋の一字一石塔	170×65cmの石碑。旧海上道の横、芝田家墓地内。芝田家は幕末から明治にかけて、玄龍・龍造の親子2代にわたり石橋村で医療に従事した家。村議員としても活躍した。外形も整い損傷はみられない。弘化3年(1846)建立。碑銘は正面「法華 一字一石塔」、裏面「弘化三丙午五月 吉辰建之本願主 芝田氏」。

分類	番号	名称	概要
工芸品	16	石橋南堂の鐘	文化13年(1816)の製作。鐘の内径24cm、外径27cm。葬式・墓参りの時の念仏鐘として利用されていた。堂入口につるされていたものと思われるが、外されて日常念仏鐘として利用されていたと思われる。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	17	馬場家文書(石橋)	概要不明

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	18	石橋神社	創立年月は不明であるが、『但馬秘鍵抄』に「天平宝字元年(757)秋9月鎮座 石津神社 石津連祖 野見宿禰の命を祀る」とあり、当時石橋村は石津と呼ばれ、石津神社と呼ばれていた。馬場氏が勧請して妙見宮としており、江戸時代には妙見菩薩社と呼ばれていたことが『石橋村差出明細帳』などに見られる。明治初めに石橋神社と改称し、祭神が国常立命に変更されている。近代社格は村社。
	19	石橋南堂(阿弥陀堂)	石橋村に残る記録には、縦・横三間四方、別当正楽寺支配、建立は貞享3年(1686)～天明3年(1793)までの98年、境内縦十六間・横十一間、此の内に荒神小社(若宮権現社)があることが記されている。堂欄間の裏書には「文化二年(1805)丑十一月吉日 当村代主 大工和右衛門きしん」と記されている。
民具	20 ～ 142	※温泉地域の民具	旧奥八田小学校で保管する。着物、履物、炊事用具、家具、調度品などの「衣食住に関する民具」が59件・124点、農耕具や養蚕具などの「生産・生業に関する民具」が54件・124点、「その他の民具」が10件・18点。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	143	石橋神社秋祭り	9月19日に行われる。
民間説話・ 俗信	144	阿弥陀池	※『温泉町郷土読本』(昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集) p247 参照
	145	野頓禅門(六部さん)の墓	※『温泉町郷土読本』(昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集) p247 参照
	146	だんご	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p112 参照 ※『春來村誌』(平成11年、春來区編集・発行) p300 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
城館跡・ 寺社跡	147	石橋馬場ノ平城跡 (馬場平城跡)	中世の城館跡。中世陶器が散布。1.8×2mの礎石も存在。
その他の遺跡	148	馬場豊後守屋敷跡	字馬場が平という地名が残り、屋敷跡の西方上側を「上堀」、下側を「下堀」と呼び、明治初めまで地籍図の中に「字上堀」「字下堀」と字名が残っていた。馬場が平の屋敷跡には、地下に豊後守の宝物等を埋めてあるとの伝説もあった。

6-10 石橋

分類	番号	名称	概要
その他の遺跡	149	馬場大明神祀跡	馬場大明神は、馬場豊後守を祀る社として、馬場豊後守屋敷跡（馬場が平）に小祠を建立して村民が崇拝していたものである。大正13年（1924）の石橋村神社改修時に神社境内に小祠を移転して祀られるようになった。跡地の社跡には90cm四方の台座があり、三段に石組みされて、周囲に玉砂利の敷かれた跡が残る。かつては、妙見社（石橋神社）の祭日には、この跡地にも幟をあげていたという。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	150	旧奥八田小学校のサクラ	概要不明

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

- ・『二方郡石橋村から見た八田谷』（平成24年11月3日、馬場福男編集・発行）

